

平成27年 7月24日

平成27年度病虫害防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病虫害防除所

水稻のいもち病および紋枯病の発生状況について

I. イネいもち病（葉いもち）

1. 調査地域 県内全域

2. 調査時期 7月中旬～下旬

3. 調査結果

1) 7月中旬～下旬の葉いもちの発生ほ場率は、県北部で47%（前年0%、平年15%）、県中部で14%（前年0%、平年31%）、県南部で67%（前年0%、平年25%）であった（表1）。

2) 7月中旬～下旬の葉いもちの発病株率は、県北部で17.2%（前年0%、平年2.3%）、県中部で5.7%（前年0%、平年7.4%）、県南部で12.8%（前年0%、平年7.8%）であった（表1）。

4. 発生予想

1) 大阪管区気象台の近畿地方1か月予報（7月18日から8月17日までの天候見通し）によると、向こう1か月の平均気温は高い確率50%であり、日照時間は平年並または多い確率ともに40%である。いもち病の発生に好適な条件ではないが、現在葉いもちの発生がみられるほ場では穂いもちに進展する可能性がある。

表1 葉いもちの発生状況(平成27年7月中旬～下旬)

作型	地域	発生ほ場率(%)			発病株率(%)			
		平成27年	平成26年	平年	平成27年	平成26年	平年	
普通期	県北部	山間	100	0	35	52.0	0.0	7.9
		中山間	0	0	17	0.0	0.0	2.5
		平坦	50	0	11	15.7	0.0	1.1
		平均	47	0	15	17.2	0.0	2.3
普通期	県中部	山間	0	0	20	0.0	0.0	1.2
		中山間	50	0	42	20.0	0.0	8.9
		平坦	0	0	31	0.0	0.0	10.0
		平均	14	0	31	5.7	0.0	7.4
早期	県南部	山間	50	0	47	8.0	0.0	21.7
		中山間	50	0	20	22.4	0.0	1.8
		平坦	100	0	12	10.0	0.0	0.8
		平均	67	0	25	12.8	0.0	7.8

5. 防除上の注意事項

1) 葉いもちの発生が認められる場合は早めに防除する。

2) 穂いもちの防除適期は穂ばらみ期～穂揃い期であるので、必要に応じて追加防除する。

3) 農薬については、最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。薬剤によって使用時期が異なるので注意する。

II. イネ紋枯病

1. 調査地域 県内全域

2. 調査時期 7月中旬～下旬

3. 調査結果

1) 7月中旬～下旬の紋枯病の発生ほ場率は、県北部で29%（前年0%、平年5%）、県中部で0%（前年0%、平年0%）、県南部で17%（前年0%、平年7%）であった（表2）。

2) 7月中旬～下旬の紋枯病の発病株率は、県北部で3.3%（前年0%、平年0.8%）、県中部で0%（前年0%、平年0%）、県南部で1.3%（前年0%、平年2.9%）であった（表2）。

4. 発生予想

1) 近畿地方1か月予報（7月18日から8月17日までの天候見通し）によると、紋枯病の発生に好適な気象条件が続くため、発病が増加すると考えられる。

表2 紋枯病の発生状況(平成27年7月中旬～下旬)

作型	地域		発生ほ場率(%)			発病株率(%)		
			平成27年	平成26年	平年	平成27年	平成26年	平年
普通期	県北部	山間	50	0	5	2.0	0.0	1.0
		中山間	33	0	6	2.7	0.0	1.2
		平坦	25	0	4	3.7	0.0	0.6
		平均	29	0	5	3.3	0.0	0.8
普通期	県中部	山間	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		中山間	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		平坦	0	0	0	0.0	0.0	0.0
		平均	0	0	0	0.0	0.0	0.0
早期	県南部	山間	0	0	5	0.0	0.0	1.2
		中山間	0	0	5	0.0	0.0	3.4
		平坦	50	0	10	4.0	0.0	4.2
		平均	17	0	7	1.3	0.0	2.9

5. 防除上の注意事項

1) 病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。また、病斑が上位葉鞘まで達していなくても発病株率が高い場合には防除を実施する。

2) 農薬の使用については、いもち病の項に準ずる。

担当：農作物病虫害防除所
大谷、菱池
電話：0736-64-2300